

アルファベットの発明・伝播と古代地中海の識字率の研究

国際コミュニケーション学部・表現文化学科

石川勝二

フェニキア・アルファベットから作られたギリシア・アルファベットは、ギリシア人の植民活動とともに地中海の全域において使用されたが、ローマ人の「世界征服」の結果、ラテン・アルファベットの使用が古代世界において優勢となった。例えばラテン・アルファベットとラテン語はローマ帝国の最北西のブリタニア（ブリテン島）においても唯一使われた文字であり、多くの記録が残された。ローマ軍の撤退（5世紀初め）以後、ラテン語は使われなくなり、ブリテン島は長い間無文字であった。このようにアルファベットの使用が歴史を知る上でいかに重要であったかを考えて、本研究では、アルファベットの歴史をたどり、古代世界における識字率を算定しようと試みた。そして以下の成果を得た。

(1) アルファベット以前の識字

アルファベット以前の文字としては、エジプトのヒエログリフ、メソポタミアの^{くさび}楔形文字、ギリシアの線文字Bがあったが、いずれも音節文字でアルファベットとは違ったが、識字の歴史の上で重要である。とりわけヒエログリフはアルファベットの基である祖シナイ文字が作られる上で重要な働きをした。

(2) フェニキア・アルファベットと識字

フェニキア人は様々な理由でエジプトに滞在したが、そのさいヒエログリフから祖シナイ文字、さらにアルファベットを作ったと考えられる。Aはアーレフ（雄牛）から、Bはベート（家）から、Cはギーメル（らくだ）からというように。祖シナイ文字が18字であったのに対し、フェニキア・アルファベットは22字で、ここにフェニキア人の工夫があったと思われる。しかしAは後のギリシア・アルファベットでは母音になるが、フェニキア・アルファベットでは、子音と意識された。

フェニキア・アルファベットはギリシア語やラテン語が地中海で支配的な文字になる以前唯一の文字であったが、現在残っているフェニキア語は墓の碑文が大部分で、内容の多くは人名や家系図を示すもので、内容は乏しい。けれどもその数の多さから、かなり高い識字率があった（30から40パーセントか？）と思われる。

(3) ギリシア・アルファベットと識字

ギリシア人が文字を使って書いたのは前14世紀で、それ以前ではなかった。その当時ギリシア人が使った文字は音節文字の線文字Bであった。この文字の知識は大部分、王宮の書記であった。したがって識字率は極めて限られていて、恐らく1パーセント以下だったであろう。アルファベットはいつごろに使われたか。伝説ではギリシア・アルファベットはフェニキア人がギリシアにおいて作り、広めたと言われるが、既にキプロス島において使われていたという説がある。またアルファベットは、長年月をかけて作られたのではなく、一人の人の発明であったという説もある。ギリシア・アルファベットは、母音の美しい発音を特色とし、母音の数も多いギリシア語を初めて文字によって表した点で画期的であった。識字率を想定するのは難しいが、前8世紀には法を公開した事実、アテネにおいては前5世紀の陶片追放のさい、追放されるべき人の名前を書いて投票したこと、政務官や役人は職務報告や会計報告したことなどから、識字率は30パーセントかそれ以上に達したのではないかと思われる。

(4) エトルリア人と識字

エトルリア人はギリシア・アルファベットの1つカルキス文字を使って書いた。エトルリア語がまだ解読されていないのは、言語系統が不明（非インド・ヨーロッパ語）であるためであるが、多数の碑文が残っている。また、出土品から書き方を習う道具（木または象牙で縁取りをした枠の中に蠟を流し込んで、その上にクギなどで字を書いた）や陶器の表にアルファベット24文字を書いたりして学習したから、20ないし30パーセントの識字率ではなかっただろうか。

(5) ラテン・アルファベットと識字

ローマ人がアルファベットを使って書いたのは遅くとも前7世紀であった。それは陶器の表面に殴り書きをしたように、文章ではなく1文字か数文字であっただろう。前6世紀になると石の上に文章を書くようになった。また王の下で記録を作る書記がいたことが、伝承から知られるが、識字率は10パーセント以内だったかもしれない。時代とともに碑文は増えていった。女性も手帳（蠟を流し込んだ書き物の板）と鉄筆をもったことが肖像画から知られていて、識字率は40パーセント前後とかなり高かったと推測される。

参考文献

Harris, W.V., *Ancient Literacy*, Cambridge MA 1989.

Borrelli, F. & Targia, C.T., *The Etruscans; Art, Architecture, and History*, London 2004.

Powell, J.G.F., Roots of our language[English] (2): *Omnibus Second Omnibus*, 1991, 26-28[orig. 1986].

ジョン・マン『人類最高の発明アルファベット』（金原瑞人・杉田七重訳、晶文社）

齋藤悠貴『古代文字が書ける、読める、描ける』明日香出版社